



素敵なプレゼント

タンティ ソピア ヌルチャヤティ
TANTI SOPIAH NURCAHYATI

私は2年半前にインドネシアから日本に来ました。遠く家族から離れて心の中は不安でいっぱいでした。

私は今、高齢者病棟の介護士として働いています。初めて仕事をする時はドキドキして日本語とか専門の言葉なんて覚えられっこないと思いました。患者さんに何を話すのか分からなくて不安でした。夜勤もあり、忙しいし疲れるし、仕事の難しさを感じました。それに技能実習生の試験もあって大変でした。私が初めてのインドネシアからの技能実習生だったので、自分でやるより他ないのです。

ある時認知症の患者さんがずっと危ない行動をしていました。足をベッドにかけたり大きい声を出したり、ずっとベッドから出たい様子でした。なぜかなと思いました。そして私は「どうしたんですか。何か、ありましたか。」と聞きました。患者さんは「家族に会いたいんだよ。」と言いました。私は少し黙っていました。「コロナのせいで、面会も限られて、会いたくなって寂しくなったんですね。私も家族にずっと会えないからその気持ちが分かりますよ。」と、心の中で呟いていました。でも私はこう言いました。「今日はもう4月ですね。桜の花があちこちで咲いていますよ。この季節に好きなことがありますか。」すると患者さんは、前家族と花見をしたことを話しているうちにだんだん笑顔になってきました。そして私に「ありがとう」と言ってくれました。私は患者さんの笑

顔と「ありがとう」の言葉で嬉しくなって、大変なことや辛いことが無くなってきました。

また、ある時、目が見えない患者さんから大切なことを教えてもらいました。その患者さんは毎日、目が見えなくても、病気をしても、頑張って自立した生活をしています。私はある日その患者さんの着替えを手伝っていて順序を間違えてしまいました。きっと怒られると自分で思いました。でも私は手伝ってあげようとしたのに、逆に私は教えてもらいました。透析をしているその患者さんから、「シャント」をしている方の手を先にすることを教えてもらったのです。そして私に「大丈夫。また勉強して、頑張ってみてね。」と優しく言ってくれました。「目が見えないのにこんなに優しいし頑張れるなんて！」と私はこの患者さんに心から感動しました。私は目が見えるのに不満なことばかり感じて諦めやすいことに恥ずかしさを感じました。私も諦めず、もっと頑張るべきだと思いました。

私は仕事にも慣れて、職員の人から、「よく頑張っているね。」と言われるようになりました。いろんな事を教えてもらい、期待に答えて頑張ろうと思いました。

私は自分の仕事で人を幸せにするのが心から好きだと感じるようになりました。それは患者さんの「笑顔」と「頑張る姿」と「ありがとうの言葉」という、素敵なプレゼントのおかげです。こちらこそ、ありがとう。これからも頑張ります。

受賞の喜び



国 籍 インドネシア
職 種 介護
実 習 実 施 者 医療法人社団晃進会
監 理 団 体 Jプロネット協同組合

タンティ ソピア ヌルチャヤティ

この度は日本語作文コンクールで最優秀賞にご選出いただき誠にありがとうございました。涙が出てくるほど、大変嬉しく感じております。私がこのような喜びを得ることができたのは、よき家族の応援と、病院のスタッフと組合の方のご指導と、日本語ボランティアの先生達のご指導のおかげです。そしてもちろん患者さんに関わった大切な経験のおかげです。心から感謝を申し上げます。

今回、最優秀賞になるとは思いませんでした。この作文を書いた時、私は心に感じている事を言いたかっただけです。それは、「私は自分の仕事で人を幸せにするのが心から好きです。」この作文が読んだ人の心に残るものになってくれたら嬉しいです。

これからも私は大変な事や辛い事を避けられないでしょう。ですがみんなのサポートを得ながら諦めずもっと頑張ろうと思います。それでまたいろいろな事が素敵なプレゼントになりますように。これからも頑張ります。

指導員のことば

タンティさんは私たちの施設に入職してから3年目になります。昨年には日本語能力試験N2を取得しました。本当に頑張り屋さんだと感心しました。今回の作文は、タンティさんの日頃からの患者さんへの優しい声掛けや対応から生まれたものだと思います。この作文を読んだ職員は、皆涙を流しました。私たちが忘れがちな思いやりがにじみ出ています。こんな職員と働けてうれしいと思いました。私たちの施設は、技能実習生には、異文化交流やグループ内の学会発表に積極的に参加・発表をしてもらっています。指導というよりは、異文化の中で、お互いを理解し、認め合い楽しく仕事をしようと日々考えています。

川崎みどりの病院 看護部長 中澤 美奈子